

大田高校 人権だより

<3学期の人権教育 HR 活動報告>

2年生・・・「教科書無償化運動」に学ぶ

「子ども達が安心して教育を受けられるように、教科書を無償化してほしい」と願い行動を起こす高知県のお母さん達の姿を、劇の形式で学びました。この運動は、結果的に全国の小中学校の教科書無償化につながる、大変意義のある行動でした。小さなきっかけから団結し、声をあげ続ける大切さを学び、生徒は驚きと感動を感じていました。以下は生徒達の感想文の一部です。

貧困でお金がなくても、親が子に教育を受けさせてあげたいという強い思いを感じることができました。教育を受ける権利があっても、実際に実現できていなかったんだと感じました。お母さん達はとても頑張ったんだと思いました。* みんな正しくて、誰も間違ったことをしていなくても人権が侵されたり不平等が起こったりするのが分かった。* 今では義務教育である小中学校の教科書が無償なのは当たり前になってしまっているが、これが過去の運動によって実現したことが再認識できた。中学校の頃に「無知は罪」という言葉を知り、そのことと関連づけて考えることができたので良かった。* 今普通に授業を受けられていることは当たり前ではないと改めて感じた。字を書けることやシャーペンを持てることは素晴らしいことだと誇りに思った。教科書を無償にくださった方々に感謝です。* 教育格差とか差別を減らすためにも、この活動はとてもいいものだと感じました。何かを変える時は、壁がたくさんあると思いますが、必要なものは必要だと胸を張って言える大人になりたいと思いました。* 教科書が無償になった経緯をぼんやりとしか知らなかったが、多くの人の頑張りによって勝ち取ったことだと知り、感動した。

大田市+中高生ボランティアグループ「大田 J0 いんっ♪」=コロナハラスメント啓発トートバッグ
「コロナハラスメントをしない・させない環境づくり」にご協力ください！



(左:劇形式でそれぞれの立場に立って考える)



(右:当時の写真から、お母さん達の熱意を感じとる)

<1年間をふり返って>

2020年は、新型コロナウイルスとの闘いをきっかけに、誰もが人権について学び、人権を意識した行動について考えさせられました。鳥根県ではそれほど感染者は多くありませんが、それでも感染者、その周囲の人々に対する差別が報告されました。また、全国的に若年者の自死、子どものふるまいが「荒れる」など、病気をきっかけに子どもたちの環境も激変しています。

先日、『「おんぶ」をせがむ小・中学生たち』という見出しをYahoo ネットニュースの見出しに見つけ、読んでみました。コロナ関連のことではありませんでしたが、最近の状況を受けて、今後、愛情のあるスキンシップ不足で苦しむ子ども達が増えるのは容易に想像できました。

2学期終業式には、校長先生が体育館にスクリーンを出して、アリンア・キーズの'Good Job'を聴かせてくださいました。誰もが努力を認められ、励まされ、エネルギーをもらいたいと願っています。小さな言葉でいい、スキンシップはなくても、思いやりの言葉をお互いにかけてあげることがいかに大切か、そしてそれを続けることの必要性を改めて感じさせられる一年でした。

発行 令和3年3月1日
大田高等学校 図書・人権・同和教育部